

基本練習問題 7-1

<解答>

- 問1 (借) 製造間接費配賦差異 2,500 (貸) 製造間接費 2,500
 問2 予算差異: 1,700円 (貸方差異)
 操業度差異: 4,200円 (借方差異)
 問3 予算差異: 1,100円 (借方差異)
 操業度差異: 1,400円 (借方差異)

【解説】

問1

資料1から製造間接費予定配賦率を計算すると次の通りである。

$$2,419,200 \div 5,760 = 420 \text{ 円/時}$$

したがって、資料2の実際操業度より当月の製造間接費予定配賦額は

$$420 \times 470 = 197,400 \text{ 円}$$

当月の製造間接費実際発生額が199,900円だから、予定配賦額 < 実際発生額より製造間接費配賦差異は2,500円借方差異となる。

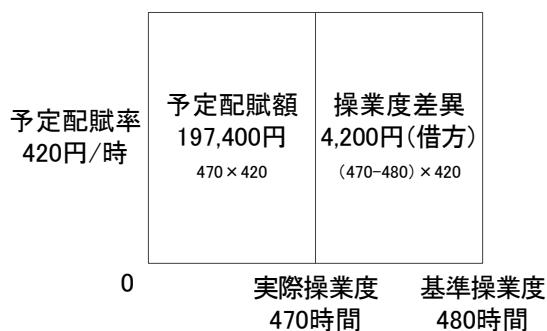
問2・問3

テキスト第7章で説明を行った★式と図を用いて解答すると次のようになる。なお、基準操業度は年間で5,760時間だから月間に直すと $5,760 \div 12 = 480$ 時間である。

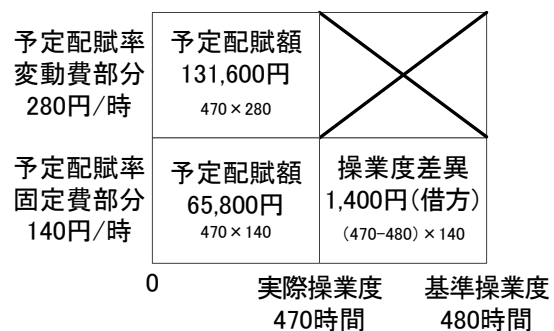
問2は固定予算を用いるので予定配賦率は問1で計算した420円/時をそのまま使う。一方で、問3では「製造間接費予定配賦率の変動費と固定費の比率が2:1」という条件があることから、変動費部分が280円/時、固定費部分が140円/時として計算する。

問2と問3で予定配賦額と操業度差異はそれぞれ次のように計算される。操業度差異は実際操業度 < 基準操業度だから借方差異である。

問2: 固定予算の場合



問3: 変動予算の場合



製造間接費実際発生額、予定配賦額及び操業度差異を★式に代入して予算差異を計算すると次のようになる。正の値であれば貸方差異、負の値であれば借方差異となる。

●問2：固定予算

$$\begin{aligned} \text{予算差異} &= \text{製造間接費予定配賦額} - \text{操業度差異} - \text{製造間接費実際発生額} \cdots \star \\ &= 197,400 - (-4,200) - 199,900 \\ &= 1,700 \end{aligned}$$

(答) 予算差異：1,700 円の貸方差異

○問3：変動予算

$$\begin{aligned} \text{予算差異} &= \text{製造間接費予定配賦額} - \text{操業度差異} - \text{製造間接費実際発生額} \cdots \star \\ &= (131,600 + 65,800) - (-1,400) - 199,900 \\ &= -1,100 \end{aligned}$$

(答) 予算差異：1,100 円の借方差異

※テキスト本文では紙幅の関係で省略しているが、図によって予算差異を簡単に算定することもできる。ただし、この図は操業度差異が借方差異の場合のみ使うことができる点に注意が必要である（操業度差異は 99%が借方差異なので、ほぼすべての問題に使うことができると考えてよい）。

